

令和元年度定時総会並びに理事会を開催 ～令和2年度事業計画・予算案などを承認～

【理事会・総会の概要】

令和2年2月6日(木)、国際ホテル松山において四国ゴルフ連盟理事会及び定時総会が開催されました。理事会では三木会長から「今年はオリンピックイヤーであり、ゴルフ競技において日本人選手の活躍により、昨年のように『しぶこフィーバー』が起り、ゴルフ界が活性化することを願っている」とのあいさつがあり、議事案件を審議し総会での審議並びに、後日の理事会により、以下の議案が原案どおり可決承認されました。

～承認・議決事項～

- ◆令和元年度事業報告・収支決算
- ◆令和2年度事業計画・収支予算
- ◆規約、規程改正による専務理事職の設置、入場者割会費の増額
- ◆専務理事 山中健太郎(新居浜CC)(新任)
- ◆競技委員長 崎山俊紀(今治CC)(新任)
- ◆ハンディキャップ委員長 岩崎一雄(高松ゴールドCC)(新任)
- ◆ジュニア委員 田中茂(鳴門CC)、益田一政(御所CC)(以上新任)
- ◆令和2年度日本ゴルフ協会部会及び委員会委員候補者の推薦

総務委員会	委員	清水康文(土佐CC)(留任)	
	税対策等部会	鈴木健壽(徳島CC)(留任)	
競技委員会	政策部会	崎山俊紀(新任)	
	男子競技運営部会	佐井重久(土佐CC)、後藤秀男(四国CC)(以上留任)	
	女子競技運営部会	坂本晴美(スカイベイGC)、二宮 薫(今治CC)	(以上留任)
- ハンディキャップ委員会 政策部会 岩崎一雄(新任)

	コースレーティング部会	坪井 優(志度CC)(留任)
--	-------------	----------------
- 育成・強化本部

	ジュニア普及委員会	川西章子(屋島CC)(留任)
	発掘育成委員会	森 茂幸(高松GC)(留任)



第15回四国小学生ゴルフ春季大会

新居浜カントリー倶楽部 (2月29日)

新型コロナウイルス感染症対策として全員参加の表彰式は行わず、成績表の掲示はしないというリスクを減らしながらの開催となりました。当日は雨中のラウンドとなりましたが、男子15名、女子18名が参加し、男子の部は武田紘汰君(小6)が1オーバーで昨年に続き大会連覇を果たしました。女子の部は菊田ひなさん(小6)が5オーバーで見事優勝をしました。



男子 (5,358y PAR72)

RANK	PLAYER	TOT	O	I
優勝	武田 紘汰 (徳島) 藍住東小⑥	73	38	35
2位	五島 昌寿 (愛媛) 味酒小⑥	75	37	38
3位	田中 優希 (徳島) 板東小⑥	78	40	38

女子 (5,358y PAR72)

RANK	PLAYER	TOT	O	I
優勝	菊田 ひな (香川) さぬき北小⑥	77	39	38
2位	井上蒼海奈 (高知) 高岡第二小⑥	79	39	40
3位	柴尾 羽梨 (高知) 三里小⑥	87	40	47



優勝者

令和2年度ジュニア強化指定選手を選定

令和元年12月4日にジュニア小委員会を開催し、令和2年度の四国地区指定強化選手の選考について協議が行われました。選考にあたっては、JGAアマチュアランキングや連盟主催競技等の成績を評価し、総合的観点から有望な中高生(男子6名、女子5名)が選定されました。

また、強化指定選手の中から男子3名、女子2名を宮崎フェニックスシーガイアリゾートで開催された8地区強化指定選手合同体力強化合宿に派遣しました。

今後、指定強化選手に対し、合宿研修や中国ゴルフ連盟との対抗戦、8地区の強化指定選手チーム対抗戦及び合同体力強化合宿への派遣などを実施し、ナショナルチームに選抜される選手の育成に努めていきます。

なお、3月30日～4月1日に予定していた中国連盟との合同合宿は、新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら中止としましたが、ジュニア選手の育成強化に努めてまいります。

【男子強化選手】

名 前	県名	学年	区分
福住 修	高知	高3	継続
高宮 千聖	高知	高3	継続
行正 怜恩	香川	高2	継続
田村 軍馬	愛媛	高1	新規
寄田 聖悟	高知	高1	新規
松井琳空海	愛媛	中2	新規

【女子強化選手】

名 前	県名	学年	区分
島勝ひなた	徳島	高2	継続
中村 真菜	高知	高2	継続
都 玲華	徳島	高2	新規
三瀬 舞愛	愛媛	高2	新規
城戸 姫菜	愛媛	高1	継続

(学年は4月進級後)

『体力について』

毎年4月の声が聞こえるとマスターズゴルフを思い出します。日本選手の活躍を期待するのですが、日本選手は段々と日にちを経ると落ちてくるのです。何故でしょうか。あれほど技術が素晴らしく、他の国の選手と比べてもテクニックでは負けないのにと、日本人の誰もが思っています。考えると結局は体力の差ですね。体力とは一体何でしょうか。ここで言う体力とは総合体力です。体力がないということは、どんな不利があるのでしょうか。誰でも疲れてくると大事な判断力が落ちてきて集中力がなくなります。頭だけでなく、筋肉までバラバラに動いてくるために、ドライバーが狂ったり、距離感がなくなったりします。疲れた時に算数の足し算や引き算をしてみるとよくわかります。そしてイライラしてリズムを失い失敗するのです。すべてのスポーツで言えることは、日本人は体力より技術をつけることにのみ必死になっています。

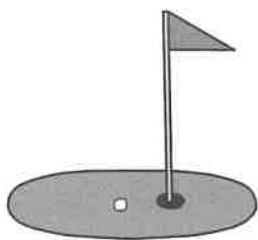
ではどうしたら総合体力がつくようになるかと言いますと、その人の生い立ちから関係してきます。先年、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されましたが、日本食だけで体力をつけるのは難しいですね。何が不足かと言いますと、筋力をつけるための蛋白質です。運動で一番活躍する筋肉に必要なものは、蛋白質とエネルギーのもととなる糖分です。子どもの時からもっと蛋白質を摂らないと駄目です。そのためには牛乳をもっと飲むことです。欧米の子どもや東洋、特にモンゴルの人たちは乳製品をしっかりと摂っています。

子どももまるで水を飲むように牛乳を飲んでいきます。

それと、最近の子どもたちは電子機器の遊びに夢中で外で遊ばなくなり、成長期に大事な筋肉を鍛錬していないのです。小さい時から技術を学ばせるのではなく、まず総合体力を養成するようにしましょう。小さい時から食べ物を考えて育てなければいけません。戦前の軍隊で1人の1日のカロリー摂取量が3,200カロリーでした。どうしてそれだけのカロリーが日本食で摂れたのでしょうか。それはそれは経理官が苦心していました。それで体の小さい日本の兵士たちが、体力で外国兵士に負けない体を造り上げたのです。子どもたちが一日中電子機器に取りつかれずに、外で遊び回る環境を作りましょう。昔は雀の声と子どもの声で朝目覚めたのですが、今はどちらも聞かれません。

(手島皓一先生 遺稿)

ギ
ャ
ラ
リ
ー
席



わがコースの名物ホール その19

久万カントリークラブ

イン 18番ホール PAR5 (BT494Y RT468Y)

昭和49年開場し今年46周年を迎える当クラブは、松山インターチェンジから国道33号線を東に約30分、四国山脈に囲まれた久万高原町の標高700m付近に位置する山岳コースです。秋の紅葉シーズンも各コース彩られて美しいのですが、夏場の涼しさは格別の心地よさを体感しながら、プレーできる立地条件となっております。四季折々に美しい姿を魅せるフィールドが、プレーヤーの感覚を刺激し各コースで戦略を考えてスコアメイクを行っていくことになります。



さて、今回紹介する最終18番ホールは、四国山脈の大川峰に向かって打っていくロングホールです。飛ばし屋の方なら、2オンも可能な468ヤードの少し打ち下ろしのコースになります。但しセカンド付近左・グリーン左サイドに池があり、最後にドラマが生まれる最終ホールになります。刻むか、狙うかプレーヤーの心理状態で大きく違ってくることでしょう。戦略としては池の手前・手前と打っていきサードショットでピンを狙うのが定石ですが、グリーンも4段のステージがありますので、正確なショットが最後まで求められます。カップインの瞬間、達成感に包まれることとなるでしょう。

わがコースの名物ホール その20

高原ゴルフ倶楽部

15番ホール PAR5 (FT485Y BT517Y)

当倶楽部は昭和49年9月に久万高原町下畑野川に開場しました。松山インターチェンジから三坂道路を通っておよそ30分。当倶楽部は、標高約600mの四国の軽井沢と言われている久万高原町に位置し、夏は冷涼で、四季折々の美しい自然の中ゆったりとプレーを楽しめます。

アウトコースは広く距離があり、緩やかなアンジュレーションの中で、ダイナミックなプレーが堪能できます。また、インコースは地形を生かした、打ち上げ、打ち下ろしなど変化に富み正確性が必要となるホールなどがあります。



さて、今回紹介する15番ホール(ロングホール)は、グリーン上からは景観の素晴らしい倶楽部ハウスが見えます。左ドックレグのロングホールで、ロングヒッターは2オンが可能なホールですが、2オン狙いの時は、ティーショットは左右OBなので、正面バンカーの上(235ヤード付近)が狙い所です。セカンドは、グリーン手前にクリークが控えているため、手堅く3オンを狙うか、勝負して2オンを狙うか選択が必要です。グリーンは広く、2段グリーンになっており、ピン位置によっては3パットの注意が必要です。距離感と方向性が求められる戦略性に富んだホールです。

〈事務局からのお知らせ〉

新型コロナウイルス感染症の影響により、加盟倶楽部においては経営に大きな打撃を受けながら、予防対策に苦慮している現状にあると思います。ゼロリスクはあり得なく、どうリスクを減らしながら営業を続けるかが大切ですが、連盟主催競技においても、4月開催予定であった男性70歳・女性60歳以上のグランドシニア会は残念ながら中止とさせていただきます。現状においては、今後のJGA選手権競技に繋がる決勝競技についても、どのような内容で開催するか検討していく必要があると考えています。一刻も早く終息することを願っています。